

文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第20回）議事概要

開催日及び場所	平成24年9月4日（火） 文部科学省 会計課会議室	
出席委員 (敬称略)	<p>○委員長 有川 博（日本大学 総合科学研究所 教授）</p> <p>○委員 田辺 孝二委員（東京工業大学大学院教授） 松浦 亨委員 （北海道大学病院 病院長補佐（病院経営・情報管理担当）、臨床教授） 和田 義博委員（公認会計士）</p>	
審議対象期間	平成24年4月1日～平成24年6月30日	
個別審査案件	10件	<p>○議 事</p> <p>(1) 平成24年度第1四半期の物品・役務等契約に係る審査</p> <p>(2) 平成24年度における「重要な調達」に係る審査</p> <p>(3) その他</p>
一般競争入札方式	5件	
最低価格方式	2件	
総合評価方式	3件	
指名競争入札方式	0件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	0件	
随意契約方式	5件	
企画競争	1件	
公 募	0件	
競争性のない随意契約	3件	
不落随意契約	1件	
事前審査案件	2件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容	個別に検討を要するものはあるが、全体として特に問題なく処理されている。	

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>平成23年度第4四半期の物品・役務等契約に係る審査の積み残し分について（以下、審査順）</p> <p>① デスクトップ型パーソナルコンピュータ7式の賃借【一般競争入札（最低価格落札方式）】（科学技術政策研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共機関は、入札制度を経て契約の相手方を選んでいくものであるから、入札に参加していない者を契約当事者にするのはどうなのか。 <p>② 英語学習意欲向上のための映像作品DVD原版作成一式【一般競争入札（総合評価落札方式）】（会計課用度班）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公告が年度末だと、実際問題としてコンテンツを作成するのに、あまりにも期間がなさすぎるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該契約は三者契約で締結しており、入札に参加していない者は契約当事者として第一等に立っていただくというわけではなく、リースの資金回収をやってもらっている。 ・仕様書の調整に時間を要し調達期間が短かったが、年度中に調達できる工程で調達を実施した。今年度の調達に係る工程表が固まっていないので、御指摘を踏まえ十分時間をとるように執行していく。

平成24年度第1四半期の物品・役務等契約に係る審査について（以下、審査順）

① 平成24年度会議における速記録作成業務一式【一般競争入札（最低価格落札方式）】（会計課用度班）

- ・速記録作成業務を行う者は、どのくらいあるのか。
- ・現在結んでいる契約金額が本当に妥当かどうか検証する機会を設けたらどうか。

② 平成24年度全国ロケーションデータベース保守管理作業【随意契約（不落随意契約）】（文化庁）

- ・公告の期間が10日程度と短いかなぜか。
- ・単年度契約では、1年ごとにサーバ等の乗換経費が発生するので、複数年契約を検討してはどうか。

③ 教科書検定結果の公開の常設展示による公開事業【一般競争入札（最低価格落札方式）】（初等中等教育局）

- ・業務を請け負っている公益財団法人教科書研究センターとはどのような団体なのか。

- ・文部科学省の速記録作成業務への興味・関心を示している者は概ね6者いる。

- ・他省庁の契約単価等を参考にしながら、適正な価格を追求していきたい。

- ・仕様書について多くの方々の入札が可能になるように確認等を行ったため、公告を出す時期が遅れてしまった。

- ・今後、数年間この事業を続けるという強い意思を文化庁内でコンセンサスが得られれば、国債などで複数年契約を検討する余地はあると思う。

- ・教科書や関連する教材についての基礎的・総合的な調査研究を行っている。なお、調査結果は教科書発行者間で共有している。

<p>④ バイオバンクの構築と臨床情報データベース化（血清サンプルおよび臨床情報の収集）【随意契約（競争性のない随意契約）】（研究振興局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通年、何サンプルくらい取扱っているのか。 <p>⑤ 疾患関連遺伝子等の探索を効率化するための遺伝子多型情報の高度化【随意契約（競争性のない随意契約）】（研究振興局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外注する際に一般管理費を除いているが、実態は再委託になっていないか。 <p>⑥ 福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の長期的影響把握手法の確立【随意契約（競争性のない随意契約）】（科学技術・学術政策局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理の必要のない設備備品については、一般管理費の対象から外すという取扱いが行われているが、今回はこれに該当しないのか。 <p>⑦ 全国的なコーディネーター活動ネットワークの構築・強化【一般競争入札（総合評価落札方式）】（科学技術・学術政策局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーターとは、どのような職業の人をイメージすればよいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間で、血清が60件、臨床情報が90件取扱っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単純に仕様書に基づいた遺伝子の解析をやってもらうだけなので、再委託にはなっていない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ハードウェア等の調整も含んでいるため、一般管理費を考慮している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な方がいるが、現状多いのは技術系で民間企業において開発に携わっていた方などである。
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・今後もこの事業を続けていくとすると、事業量として必要なのは定期的な会議や全国的な会議の議題の掘り起こしということになるのか。 <p>⑧ 平成24年度放射能測定調査委託事業「放射能測定調査」【一般競争入札（総合評価落札方式）】（科学技術・学術政策局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本分析センター以外に、こういう業務をやれる組織はないのか。これに特化した人的体制をとっていないとだめなのか。 <p>⑨ モニタリング技術調査【一般競争入札（総合評価落札方式）】（研究開発局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会には何者参加されたのか。 ・この事業は昨年も行われているのか。 <p>⑩ ドーピング防止教育・研修事業【随意契約（企画競争方式）】（スポーツ・青少年局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、毎年教材作成や調査、あるいは印刷製本が必要なのか。 ・教育や研修の中身の調査研究がどれだけ手厚くやられているのかがわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの能力向上に資するような会議をしていただくことが、主なところである。 <ul style="list-style-type: none"> ・事業の規模が大きい点、専門知識を有した方が必要な点、原子力艦が入港した時に備えいろいろ張り付いて作業をしてもらう必要がある点等により、大変難しいところだと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・説明会には2者参加している。 ・昨年度は、今年度の調査内容とは若干異なる調査を実施している。福島第一原子力発電所事故を踏まえて調査内容を見直している。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンチ・ドーピングはイタチごっこのかたちであり、その時点時点で、ドーピングに対応するために求められる状況が異なっている。 ・アンチ・ドーピング機構でも現場の声を取り入れて、それを反映するようにしているところ。
---	--

【総括】

- ・個別に検討を要するものはあるが、全体として特に問題なく処理されている。

(以 上)